



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 15号

第9ステージは11月20日、本隊が名鉄知立駅から東岡崎まで。観光隊は名鉄知立駅から知立の松並木を見て牛田駅まで歩き、そこから矢作まで名鉄電車に乗るキセルウォークであるが、そこから本隊は行かない「大樹寺」まで約4キロを歩き昼食後、愛知環状鉄道で中岡崎に戻り八丁味噌の「カクキュー」を見学して岡崎城を見学するコースである。

岡崎城ではガイドさんの案内で隅から隅まで廻り天守閣では4階まで登る。ひょっとしたら本隊より歩いたのではというなかを「岡崎信用金庫資料館」へ。「まだ行くの」とやや悲鳴も出たが千両箱と一億円の持ち上げ体験が面白かったようだ。

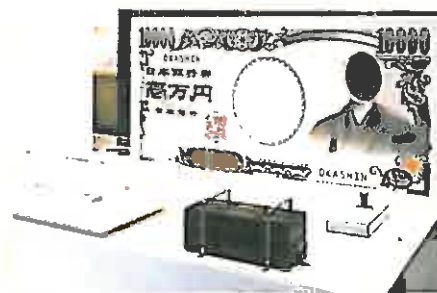


岡崎城の起源は15世紀蔚半までさかのぼる。明大寺の地に西郷頼嗣こよって築城されたのがそのはじまりである。その後、享禄4年(1531)に松平清康(家康の祖父)が現在の位置に移して以来、ここが岡崎城と称されるようになった。天文11年(1542)12月26日、徳川家康は、ここ岡崎城内で誕生した。家康は、6歳で織田信秀(信長の父)、8歳で今川義元の人質となり、少年期を他国で過ごしたが、永禄3年(1560)の桶狭間の合戦で、今川義元が戦死したことを契機に自立した。ときに19歳。以来、岡崎城を拠点に天下統一という偉業への基礎を固めた。



大正6年4月に建設された岡崎銀行本店は、諸官庁、財閥銀行本店ビル等に見られるような洋風建築にするために、中京地方の西洋建築第一人者であった鈴木禎次氏(1870~1941年)に設計を依頼。赤レンガと地元産の御影石(花崗岩)を組み合わせた見事なルネッサンス様式の建物として産声をあげました。その後、昭利51年まで岡崎商工会議所が地元経済の拠点としてきましたが、老朽化が進み取り壊しの運命となるところを、市民からの「保存すべき」との声に応じて岡崎信用金庫が購入。復元と補強を加え、岡崎信用金庫資料館として、歴史を刻み続けることになりました。

岡崎信用金庫の資料館にふさわしく、2階は貨幣展示場で、その一角に体験コーナーがあり、昔の千両箱と現在の一億円を持ち上げることが出来る。千両箱は約20キロあり、「1つ2つ担いで逃げる時代劇はウソだなあ」の声しきり。東海道歩きにふさわしい体験でした。(右が千両箱、左のプラスチックの箱の中に1億円相当の札束がある)



平成19年12月には文化財として保存および活用されるべき建造物と評価され、国の「登録有形文化財」に選ばれ、平成20年3月に登録されました。